

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0892900028		
法人名	社会福祉法人河内厚生会		
事業所名	グループホームみつば(吉番館)		
所在地	茨城県稲敷市光葉11-22		
自己評価作成日	2019年12月1日	評価結果市町村受理日	2020年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892900028-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892900028-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年2月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は近隣の住宅街を見渡せる場所に建っています。敷地の中には畑やウッドデッキがあり、季節に応じた野菜を栽培したり、花や植物の世話をさせていただいてます。併設している小規模多機能型やご家族・近隣住民の方との交流を大切に、グループホーム住民以外の方との交流の機会を増やすよう努めています。入居者様の声に耳を傾け、安心して生活が送れるようスタッフ同士が話し合い、情報を共有しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近隣の住宅地見渡すことができる高台に立地する、小規模多機能型施設を併設した平屋のホームである。地域密着型施設として、理念にもある『地域に愛される施設』を目指し、防災訓練の場として駐車場を開放し、災害時には避難場所として申し出ている。納涼祭には地域住民に参加を呼びかけ、多くの参加があり、介護・福祉に関する相談を受け、アドバイス等を行っている。『みつば喫茶』や市の敬老会・文化祭等に参加し、地域住民との交流を大切にしている。職員は、利用者一人ひとりの思いを汲み入れたケアの実践に日々取り組まれている。往診医と訪問看護師との医療連携もあり、終末期は看取りまで実践されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲示し、職員全員がその意味を理解し介護を行っている。新規入職の職員には新人研修の場を設け、そこで理念についての説明を行っている。	職員が常に理念を確認できるよう、玄関と各ユニットの壁面に掲示している。管理者・職員は、職員会議等で理念に基づいたサービスが実践されているかを確認している。職員からは、利用者のその時々のお気持ちを汲み取りながら、ケアに努めているとの話があった。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域の防災訓練を施設敷地内で実施。近隣住民のボランティアの受け入れや、施設行事に参加していただき交流をしている。	地域の防災訓練に駐車場を提供、災害時には施設を避難場所にするように発信している。公民館で開催する『みつば喫茶』や市の敬老会に参加。施設の納涼祭には地元住民の参加がある。ギター・踊り・絵本の読み聞かせ等のボランティアや中学生の職場体験を受け入れている。地域住民からの介護や福祉に関する相談を受けてアドバイスをしたり、関係機関に繋げている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の認知症予防の集まりに参加し、ホームでの対応の仕方などについて意見交換している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、報告・意見の交換を行い、日々のサービスの向上に努めている。	自治会長・民生委員・老人会会長・地域代表・行政・社協・事業者担当者の構成メンバーで奇数月に小規模と合同で開催している。現在、家族の参加がないので議事録を送付し、利用料請求時に参加依頼をお願いする。会議では利用者の生活の様子や運営状況、行事の報告を行うと共に、行政からの連絡事項や出席者との意見交換を行い、出た意見等はサービスの向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他の機会を利用し、連携を取るとともに、情報の交換を行っている。	介護保険課・地域包括支援センター・社会福祉課・社会福祉協議会とは密に連絡をとり、協力関係を築いている。管理者は電話だけでなく、直接、市窓口に出向いて担当者と情報交換を行っている。中学生の職場体験を受入れ、ケアマネ会に参加している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを当たり前のケアとして職員全員が認識するとともに、委員会で拘束につながる事例がないか検討している。研修を行い職員の認識の向上に努めている。	身体拘束抑制廃止委員会を隣接の小規模多機能型事業所と一緒に3ヶ月に1回開催し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員にも伝達し、職員研修も実施しており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。門扉は法人から閉めた方がいいと指摘を受けたが、地域住民が自由に出入りできるよう、職員意見（見守り強化すること了解を得て）で、解放している。職員は「ダメ」と言わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体に対する虐待はもとより、言葉による虐待がないよう日々注意を払うとともに、研修を行い職員の認識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。契約後も随時説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、運営推進会議での家族の意見を施設運営に反映させている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴き、利用者の思いに添えるよう支援をしている。家族からは面会時や、家族参加のイベント（納涼祭・クリスマス会）等で意見や要望等を聴くように努めている。毎日、勤務職員の名前（写真付き）をユニット別に玄関先に掲示し、新人職員の紹介は施設の広報誌に掲載して家族に周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聞くとともに、職員からの意見を法人全体の会議で報告している。	管理者は日頃から職員が何でも話しやすいようコミュニケーションを図っているほか、月1回の職員会議に職員の意見や提案を聴く機会を設けている。利用者の処遇について等の活発な意見があり、出た意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。職員の人数の関係で、外部研修への参加は難しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の頑張りを評価し、賞与の査定を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づく施設内研修と、近隣施設との合同研修等を行っている。職員の希望する研修への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	稲敷市内の地域密着型施設間での連絡会議を通じて意見交換を行っている。協力して納涼祭や防災訓練を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と話すとともに、家族からも情報を十分に得て、本人の希望に沿う環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な意見交換を行い、要望に対して柔軟に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望を理解し、場合によっては併設の小規模多機能ホームでのサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の洗濯・掃除・簡単な食事の準備等を職員と入居者様で協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事への参加や、本人との外出等の協力をお願いし、家族との交流が途切れないうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症流行時を除き、面会には制限を設けず、自由に来所していただけるよう努めている。	『みつば喫茶』や小規模多機能型事業所で馴染みの人との交流を図っている。友人の面会がある利用者がいる。初詣・神社・買い物等の支援を行っている。また、家族等の協力を得ながら面会・外食・墓参りなどを支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の趣味や得意なことを把握し、それぞれが良い関係を築けるよう気を配りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去により契約を終了しても家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でコミュニケーションを取り、その人の立場や役割を把握している。本人の出来ることを抑えず、家での生活に近い環境を提供するよう努めている。	職員は、契約時のアセスメント・生活歴・職歴等を把握する共に、日常の関わりや会話を通じて希望や意向を聴き、利用者の気持ちを大切に支援に努めている。利用者にとって『みつばで生きることは何か?』を検討。洗濯干し・たたみ、食材を切る、下膳、おしぼりたたみ、花の水やり、家庭菜園、居室の掃除等、利用者が自分で出来ることは行って頂き、利用者の活力を図る支援を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活習慣について家族や本人に聞き、ケアプランに反映し、職員全員が理解・実践するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の作業に参加してもらいながら状態の変化を把握し、心身のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りの中で話し合い、ケア記録等を通して情報を共有している。常に家族・本人と相談してケアプランを作成している。	介護計画は利用者や家族等からの意見や要望のほか、医師や看護師の意見等を取り入れながらカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方を話し合い、計画作成担当者が作成している。作成後は家族等が来訪した際に説明を行い同意を得ている。モニタリングは、サービス計画達成表で毎日チェックし◎・○・×で印をつけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやユニット毎のケアカンファレンス等で情報交換をして、入居者様の変化に柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の昔からの馴染みを大切にしながら、状況に合わせた支援を行えるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域の区長・民生委員・老人クラブ等と意見交換・協力しながら、地域の行事に参加し交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療やかかりつけ医と連携しながら、随時受診付添対応を行っている。	協力医療機関から2カ月に1回の往診(4名)があり、かかりつけ医の受診は家族対応となっているが、ほとんどは職員が付き添っての受診となっている。かかりつけ医に付き添い受診する際は、家族に電話連絡の上、受診付き添い記録に残している。家族付き添いの場合には受診記録に記入する。往診医と週1の訪看とは24時間オンコールで相談できる体制となっている。緊急搬送の場合は緊急搬送連絡票に記録されている。訪問歯科も入っている他、年1回健康診断を実施している。	受診結果や本人の健康状態の時系列的な把握、家族・医療関係者等、関係者との情報共有を図るためにも、受診記録として独立した書式作成の検討を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理の他に、24時間オンコール、体調変化時の受診相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護サマリーを提供し、入院時、退院時ともに主治医や病棟看護師と情報交換し連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り介護について説明し、同意書への同意の有無を伺っている。その後も随時相談を行っている。また職員の看取りに関する共通認識を築くべく研修を行っている。	契約時に看取り介護について方針を説明し、同意を得ているが、状態の変化に伴い家族の想いも変わるので、その都度話し合いを行い、家族の協力を得ながら、利用者にとって最善の終末に向けたケアに努めている。協力医療機関と訪問看護師とは24時間連携がとれる体制となっている。看取りの研修も継続的に実施。家族の宿泊も可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを定め、職員への周知徹底に努めている。救急救命講習会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回防災訓練を行っている。消防署主催の研修に参加している。	年2回避難訓練が行われ、消防署立ち合いの訓練と夜間を想定した訓練を小規模多機能事業所と合同で実施している。また、同法人施設の協力体制もあり。地域の防災訓練に訓練場所として、災害時の避難場所として施設の提供を申し出ており、地域との協力関係も構築されている。備蓄品も整備している。	緊急持ち出し用品・備蓄品(停電対策の用品の検討や寒さ対策等)・同法人施設との協力内容の再確認・検討と災害別の防災マニュアルの職員への周知を図る研修会等の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活・歴史を尊重し、それぞれに合った対応をしている。	トイレ介助の時はドアを閉め、ズボンを下ろしすぎないようにするなどの配慮や、浴室はドアとカーテンで2重になるようにし、完全個室としてプライバシー保護に努めるようにしている。繰り返し同じ話しをしても、否定せずに聞いており、職員は利用者に丁寧に話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作るよう心がけ、何事にも本人の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞き、可能な限り入居者の意に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時の衣服の選択、訪問理美容の希望を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人の出来ることは職員と一緒に手伝っていただき、献立を説明する等して楽しんでいただいている。個々の嗜好を把握して提供している。	食材配送業者の献立と食材を利用し、利用者の状態に合わせた形態で提供。月1でお楽しみ献立があり、ペランダでバーベキューやサンマを焼いたり、正月に餅をついて食べるなど、利用者が希望する食事を提供し、食の楽しみとしている。誕生日にはケーキの提供。ホットケーキや大福、お好み焼、焼きそば等のおやつ作りや外食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は専門の栄養士が考え、バランスのとれた食事を提供している。必要に応じて食事形態を変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、出来ないところは職員が援助している。必要に応じて訪問歯科受診を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのADLに合う排泄手段を考え、可能な限り自力での排泄が出来るよう支援している。オムツを使用する場合も本人に合った物を使用するよう随時検討している。	排泄はトイレで行うことを基本とし、日中はトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。座位が不安定で見守りが必要な方や夜間のみオムツやポータブルトイレ使用の方がいる。トイレの場所が一目で分かるように大きな文字で表示されていた。以前オムツ使用だったが、自立になった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取、運動を促すとともに、主治医と相談し内服の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望時に入浴出来るようにしている。	基本的に週2回の入浴であるが、毎日入浴する方がいる。拒否者には無理強いをせず、時間をおいて声かけや人を替えて声かけするなどの取り組みを行っている。時には小規模多機能事業所にある陶器とヒノキ風呂の入浴を楽しんでもらうこともある。入浴剤を使用したり菖蒲湯・ゆず湯の季節湯を楽しんでいる。着替えは職員と一緒に準備している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮しながら、本人の希望の時間に昼寝の提案をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に処方していただき、訪問薬剤師の指導のもとで内服の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割提供をし、本人が出来るよう支援している。一人ひとりに合った、楽しみながら出来ることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換のドライブ、その他外食や買い物等を企画し、家族と相談しながら出来る限り本人の希望に沿った外出をしている。	天気の良い日はベランダでの日光浴や敷地内の散歩をしたり、利用者希望のドライブに出かけている。みつば喫茶・敬老会・文化祭の参加や初詣(大杉神社・鹿島神宮・香取神宮)、お花見(桜・チューリップ・あやめ・ネモフィラ・菊)、外食や買い物等、利用者の希望に添った外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族がしているが、本人の希望があれば保管管理し、希望時の買い物等に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に電話していただいたり、年賀状を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けを行い、また暖かい日にはウッドデッキでお茶を飲んだり、日向ぼっこをして季節を感じていただいている。	天井が高く、窓から陽が差し込み、木の梁が温もりを感じさせるリビングは畳コーナーもあって広々としている。長く広いウッドデッキでユニット間の行き来ができ、居室からも出られ、草花のプランターや隣接する駐車場、近隣の住宅が眺められ、心地よく過ごせる場所となっている。廊下も広々としており回廊型で、壁には共同制作した絵などが飾れていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が良好な関係を維持出来るような座席配置や、併用施設との自由な交流を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく使い慣れた物を持ってきていただき、本人がこれまで生活してきた環境に少しでも近づけるようにしている。	ベットのみ備え付けで、タンス・衣装ケース・カラーボックス・椅子等が安全面を配慮し置かれている。家族写真、趣味のぬり絵・本、造花、ぬいぐるみ等で利用者がほっとできる雰囲気をつくり、居心地よく過ごせるようになっている。壁にハンガー掛けがあり、衣類(上着)が選び易くなっている。清掃は出来る範囲で利用者も一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂等十分なスペースを確保し、入居者自身で出来ることを妨げないようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームみつば

## 目標達成計画

作成日: 2020年5月6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	受診結果や本人の健康状態の時系列的な把握が出来ていない。家族・医療関係者等との情報共有を図るために、独立した書式作成が必要である。	受診結果や健康状態が時系列でわかり、かつ独立した書式で誰が見ても健康状態の経過がわかるようにする。	受診記録の見直し。利用者ごとに受診記録等、健康状態の経過がわかるようファイリング。全職員への周知。	3ヶ月
2	35	災害対策が全職員には周知されていない。	災害対策が全職員に周知される。	災害別のマニュアルの整備。緊急持ち出し用品や備蓄品の確認。同法人施設との協力内容を再確認。会議や内部研修等で、防災マニュアルを周知する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。